

岐大のいぶき

No.11

2006 / April

発行日:平成18年4月
発行:国立大学法人 岐阜大学
岐阜市柳戸1番1
☎058-230-1111(代表)
ホームページ:<http://www.gifu-u.ac.jp/>

GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI

Published by GIFU UNIVERSITY

岐阜大学の国際交流と国際化

岐阜大学理事(副学長):森 秀樹 ————— 2

地域と大学

地域資料・情報センター

運営委員会委員長:富樫幸一 ————— 3

話題の研究

アレルギー素因の遺伝子検査キットの開発

—岐阜大学小児病態学研究プロジェクトの紹介—

医学系研究科臨床講師:松井永子 ————— 4
同教授:近藤直実

エッセー

緑の魔境

応用生物科学部教授:小見山 章 ————— 6

授業風景

セミナー(地域科学部)

医療面接実習(医学部)

CAE実習(工学部)

サークル紹介 ————— 10

ハングライダー部/ユネスコ学生クラブ

座談会

教師のためのインターネット型大学院、はじめます — 12

大学への想い

若人たちの未来に期待を込めて

名古屋ハイウェイ株式会社代表取締役社長:横山和裕氏 — 15

平成18年度岐阜大学公開講座 ————— 16



岐阜大学の国際交流と国際化

岐阜大学が目指すところの一つは、国際的に広く認識される知の拠点になることである。この場合の知は、主に国際的に活躍できる人材を育成することと、学術研究に関して国際的に評価の高い情報を発信することを示す。

本学はこれまで、大学の使命として、海外の多くの大学と大学間あるいは学部間の協定を結び、学術研究や教育の交流を積極的に行い、その成果を地域に還元する努力を行ってきた。数字で示すと、大学間では29大学、学部間では8大学と学術交流協定を結んでいる。この交流協定とも関係するが、現在、アジアを中心に40の国から約420名の留学生が岐阜大学で学んでいる。このほか、毎年本学で開催されるサマースクールなど語学教育を中心とする短期プログラムには、スウェーデンや韓国の大学からの学生が多数参加している。一方、教職員の国際交流は年々盛んになっており、学術交流などの目的での海外渡航数は、今では年間500件を越えている。このように本学では、海外の教育・研究機関との多様な国際交流が活発に行われており、今後もますます進むものと考えられる。

さらに、国際交流に関しては、大学の国際展開重点化の動きが出ている。このことは、海外における学術交流拠点形成という本学の国際戦略に密接に関連する。本学では昨年、中国・上海市に、岐阜大学で学び帰国した留学生による中国人同窓会が設立された。同地では、岐阜県人会が現在120名を越える企業会員によって組織され、活発な活動をしており、この県人会と帰国留学生との結びつきも進んでいる。有り難いことに、平成16年に本学と包括協定を締結した十六銀行から、同行の上海事務所使用の申し出を頂いている。加えて、上海の有力大学である同済大学との間で、学生交流を主体とする協定が決定した(30番目の交流協定校となる)。従って、中国の上海地区が岐阜大学にとって、最初の国際交流拠点となる背景が整ったことになる。このような新しい環境を得て、岐阜大学における国際的な人材教育および人材交流が一層進み、そのことが地域産業の発展に繋がれば幸いと考える。



国立大学法人
岐阜大学理事(副学長)
森 秀樹



地域資料・情報センター



▲写真1/書架に収まる豊富な地域資料

地域科学部に「地域資料・情報センター」があるのですが…

岐阜大学の地域貢献事業の一つとして、地域関係の資料の収集と整理、情報の発信と交流の場とするために2002年に発足しました。まだあまり知られてないかもしれませんが、地域科学部のH棟6階にあります。

どんな資料や情報があるのですか？

市町村や地域の資料に加えて、岐阜県内の市町村にお願いして寄贈を受けた行政資料や購入した図書、さらには民間研究機関から頂いた貴重な地域政策資料など、

約2000点以上を保有しており(写真1)、ウェブ上からも検索できます(<http://rlc.forest.gifu-u.ac.jp>)。

一般の市民でも利用することができますか？

もちろんできます。まちづくりに使ってみたいとき、さらに他の情報や関わりのある人を探したいときには、メールで問合せたり(cccdin@cc.gifu-u.ac.jp)、直接訪れてみて下さい。時間は朝9時から5時までですが、常時、人がいるわけではないので、事前にご連絡頂けると助かります。

関係がありそうな資料情報の提供としてのレファレンス・サービスも受け付けています。こうした交流の中から、新しい情報やアイデアが生まれてくるかもしれません。卒論のテーマを調べてみたい学生さんや、まちづくりに興味のある人もぜひ来て下さい。

ウェブ上からでも、資料を手に入れることができますか？

今のところ岐阜シンポ「岐阜学を求めてー持続可能な地域づくり

と大学の貢献」(平成16年11月)の報告書がダウンロードできます。それ以外には、センターに来ていただければ、地域科学部の実習報告「岐阜市中心市街地調査」(柳ヶ瀬、金華、大洞など)シリーズなどが入手できます。

いろいろなまちづくり関係のパンフレットやチラシ、冊子などは、大学や行政だけでなく、住民の方々やNPOなどからも発信されています。そうしたものに加え、最新のイベント情報などもご覧いただけます。



▲大学フェアの様子

これからどんな活動をしているのですか？

学内では、昨年(平成17年)から教育学部郷土博物館(教育学部棟5階)と協同で、古文書等の保存と整理の作業を始めています。これらは教材としても活用できるようにしています。

地域での活動としては、ぎふまちづくりセンター(<http://www.gifumachi-zukuri.com>)やまちづくり団体とのつながりを生かし、これからは住民、企業、NPOや行政と岐阜大学とのパートナーシップを具現化するひとつの場として活動を継続していきたいと考えています。

また、眠っている(部屋や段ボールに隠れている)貴重な資料などを、提供して頂けるもの、公開できるものがありましたら、ぜひお知らせ下さい。



地域資料・情報センター運営委員会委員長 富樫 幸一(地域科学部助教授)



アレルギー素因の遺伝子検査キットの開発 — 岐阜大学小児病態学プロジェクトの紹介 —

医学系研究科 小児病態学

松井 永子
近藤 直実



松井臨床講師

近藤教授

私たちの岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学分野で取り組んでいる主軸プロジェクトのうちの1つである「アレルギー素因の遺伝子検査キットの開発」について紹介します。

アレルギー症状は遺伝的要因＋環境要因で発症

アレルギーとは、ある特定の

物質に対して過敏に反応すること

をいい、この時、原因になる

物質を抗原(アレルギーと呼ん

でいます。そして、アレルギー症

状は何らかの遺伝的要因に抗

原に曝されるといった環境要因

が加わって発症します。つまり、

家族の中に花粉症やアトピー性

皮膚炎といったアレルギー症状

をもつ人がいる場合、いない場合

よりアレルギー症状をおこしや

すいといわれています。これが、

何らかの遺伝的要因が関わって

いるということなんです。そして、同

じ遺伝的要因を持つ人であって

も症状を認める人と認めない

人がいるということは、抗原と

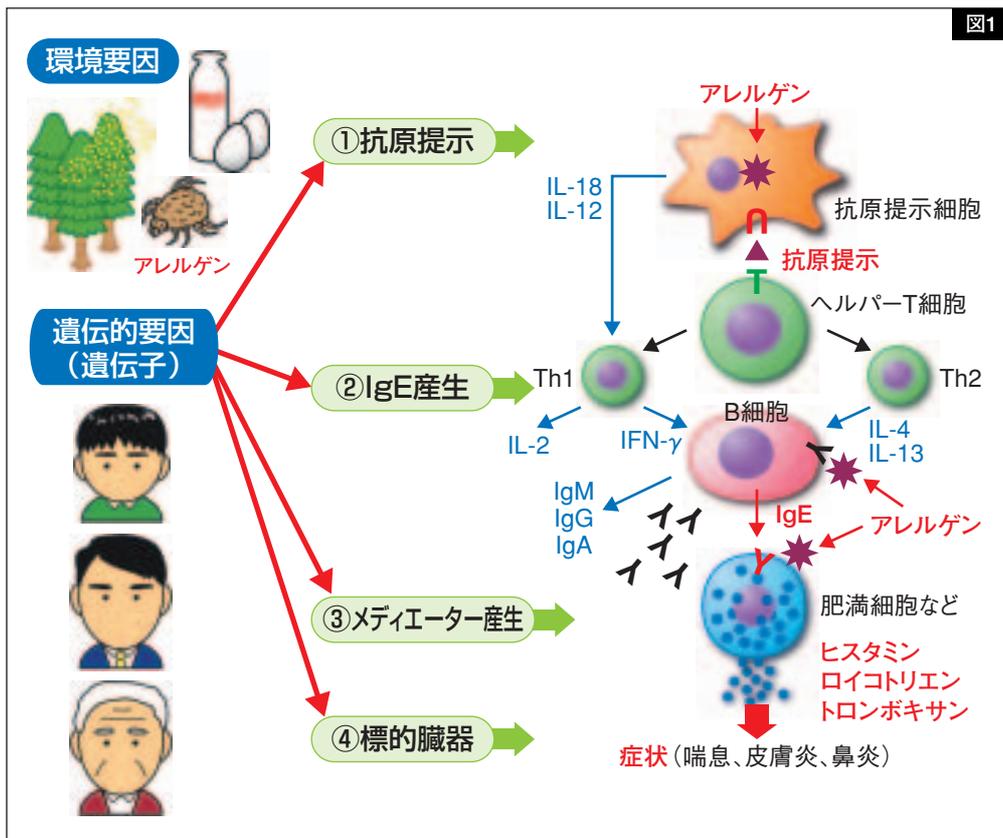
なる物質(たとえばスギ花粉な

ど)との接触状況などの環境の

影響があることを示しています。

これが環境要因です。

これが環境要因です。





アレルギー反応には
4つの段階があり、
個々に関連する遺伝子あり

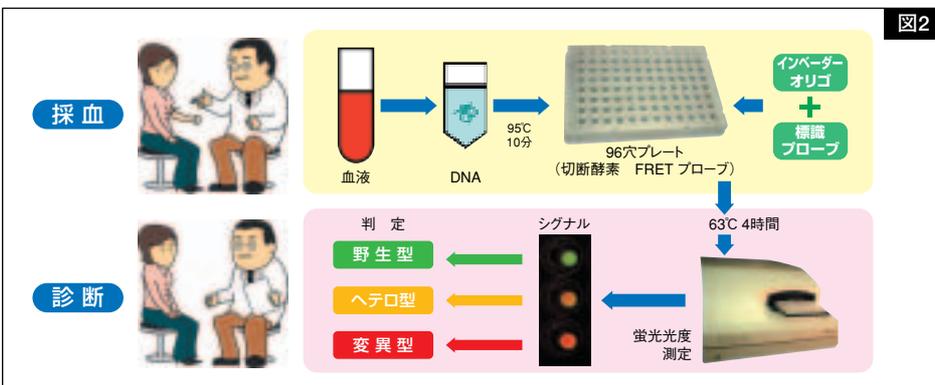
抗原(アレルゲン)となる物質に何年も接していると、ある特定の人では、この抗原に反応して体内にIgEという抗体が作られます。抗原と抗体は、鍵と鍵穴の関係に似ており、決まったもの同士が結合します。これを抗原抗体反応といいます。この反応が引き金になって炎症を引き起こす様々な物質が放出されます。そして、これらの放出物質が作用して、気道の収縮や、目、鼻の粘膜に様々な症状、すなわちアレルギー症状があらわれます。このアレルギー反応を整理すると、抗原提示段階、IgE抗体産生段階、メデイエーター産生段階、そして標的臓器の段階の4段階に分けられます(図1)。そして、これらの4段階それぞれに関連する遺伝子がアレルギーの病因遺伝子として報告されています。つまり、同じアレルギー症状を

呈しているも、人によってその原因となる遺伝子が異なっていると考えられます。したがって、アレルギー症状をもつ患者さんの個人個人の病態を正確に把握するには、それぞれの患者さんがどのような遺伝子にどのような変異や多型を持っているのかを把握することが重要となります。そして、それぞれの病態に応じた治療薬を選択していく必要があります。

簡便な検査法を確立、
そしてテラーメイド治療へ

現在、アレルギー検査というとIgE抗体の量を測定したり、何がアレルゲンかを調べる抗原検査が中心です。これらは主に患者さんが発症した後、環境要因への対策をするために行われています。遺伝子変異・多型を診断に応用することにより、アレルギーの遺伝的要因を判別することは、発症前に症状を予測し、発症後も病因を的確に判断することにつながり

ます。つまり、予防、治療のどちらにとっても極めて重要です。しかし、従来の遺伝子解析の方法では、大規模な装置と大幅な時間がかかり、診断に応用することが難しいため、当小児病態学分野では、より簡便な検査法の確立を目指してきました。それが、インベーター法(米国 Third Wave Technologies 社の開発した遺伝子解析技術)を用いて BML社と共同開発した「アレルギー素因の遺伝子検査キット」です。血液からDNAを抽出し、試薬(インベーターオリゴ等)と反応させ、63℃で4時間温めた後、蛍光光度を測定することで、多型の有無を判定します(図2)。この方法により、遺伝子多型判別法が技術的に確立されました。課題として、遺伝子に関わる検査であるため、インフォームドコンセント問題の解決や、保険適用ができるかどうかなど、一般的な検査として普及するためには運用面の十分な体制作り



があげられます。今後、実際の臨床応用にむけて十分に検討していきたいと考えています。そして、この方法を用いてアレルギーのテラーメイド(個人の病態に応じた)治療の確立に活用していきたいと考えています。

緑の魔境

応用生物科学部教授 小見山章

地球は丸いから、いろんな場所に地の果てがある。人は、一生に一度、自分だけの地の果てを踏む。

日本を出て十日あまり、マレイ諸島にたどり着き、生物進化の碩学ウォーレスの足跡を探る。火山島のテルナテを船出して、やっと上陸したのが、ハルマヘラ島だ。ドディングから地峡を横断し、ボバニゴで再び一艘のボロ船を雇い、マングローブに覆われた緑の海岸線を眺め、誰もいないカウ湾を北上する。

イルカたちに先導されながら、座礁した旧

日本軍の船団が横たわる海を抜けると、突

然、砂浜の合間にカウ村が現れる。何も無い

この小さな村に逗留して、マングローブ林を

調べた。毎日、船に乗って、海から森に入る。

ハイビスカスが咲く小さな砂丘を土手にし

て、その奥には鬱蒼とした密林が延々と続く。

膝まで泥につかりながら、一本一本、植物名

を記録し、樹木の大きさを調べ、時には、切

り倒し、根を掘って、その重さをはかる。

地面には、褐色の大蛇の群れのように、ヒ

ルギの異形の根がうねっている。その上に座

り、疲れてじっとしていると、足もとで赤色、

黄色鮮やかな蟹が殻を振りまわし、不思議

なしぐさで舞踊する。立ち上がると、蟹は瞬

時に巣穴に隠れる。海水に浸かった土の中で

は、無数の巣穴が交錯し、穴ジャコやゴカイ

の類、貝やら、目の退化した魚まで棲んでい

る。マングローブ林の下には海の世界が入り

込んでいるのだ。

ふと、木の下闇から天を仰ぐと、熱帯の強

烈な太陽が、幾重にも重なる緑の樹冠にふ

りそそぎ、木の間蝶がひらひらと舞ってい

る。風をはらむ緑のかなたには、澄んだ空に

海鳥が群れ飛んでいる。昼間の森は生命に

満ち、数知れぬ生き物たちが謳歌する音や

色彩にあふれている。ここに

は、せめぎ合い支え合う無

限の連鎖が存在し、大地に

美しい調和が生まれている。

夕方になると、雷鳴がと

どろき始める。青白い稲妻

が向こうの森に走り、だん

だんこちらへ近づいてくると、

うす暗くなつた周囲に鬼気

がせまる。そろそろ、夜の生





き物たちが動きはじめる頃だ。文明を持ち自然から離れた人間は、ひとり森の中でなんと孤独かつ無力なことが。落ち着かない気持ちを味わう。ようやく、船頭のデルマンが、父親の呪術師と一緒に迎えにきてくれ帰途につく。

二ヶ月もこんな世界に埋もれていると、頭の中に緑と泥が染みこんで、繁華な街にいたことが遠い昔のことのように思えてしまう。二十年前前に訪れたハルマヘラは、地の果てとして、今もそのままの姿で私の中で生き続けている。

マレイ諸島

現在の「マルク(モルッカ)諸島」など、インドネシアに散在する島々の総称。ここで、19世紀のイギリスの博物学者A. R. ウォーレスは、「マレイ諸島」という大著を記した。ハルマヘラは、ニューギニア島とセレベス島の中間に位置する。

LESSON SCENERY

セミナー

地域科学部地域科学科3年 大石 諭香

地域科学部では、2年後期から卒業まで学部教育の基軸とも言える専門セミナーを履修します。私が所属する野原セミナーでは、履修しやジャーナリズムに関する野原セミナーでは、メディアと共に、自ら企画し映像作品を制作したり、イベントを開催したりしています。

私は、11月6日に、フォトジャーナリストの広河隆二氏を招き、講演会・写真展を企画しました。広河氏が編集長をされているフォトジャーナリズム雑誌「DAYS JAPAN」のサポーターズクラブ名古屋を設立した関係で、このイベントができることになりました。多くの方が来場していただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

また、卒業研究として、日系ブラジル人の生活にスポットをあてた映像ドキュメンタリー作品を現在作り始めています。学生時代にはかできないことに対して意欲的に取り組んでいくことで、充実した日々を送りたいと考えています。



授業風景

医療面接実習

医学部医学科5年 篠原 司

医療面接実習は、医学部の学生が4、5年生になると受ける授業です。学生が医師役となり、実際に病院で行うように、模擬患者さんを相手に医療についての面接を行います。その後、この会話の応答を模擬患者さん、先生、学生に評価してもらい、討論をします。模擬患者さんは一般市民（ボランティア）の方で、自ら練習をされており、迫真の演技で患者役をされます。一見するとお医者さんで楽しそうに見えるかもしれませんが、しかし、初めての時は緊張で聞きたいことも聞くことができず、患者さんに対する配慮の不十分さも指摘され、将来医師になることができないか不安になる程でした。医学的に必要な情報を短時間に得る事と、患者さんと良い関係をつくる事を同時に行うのは、想像以上に大変です。持てる知識を駆使して病気は何なのかを考えていると、患者さんの表情や口調、ポロツともらず何気ない言葉に気配りを忘れるてしまうことがしばしばでした。良い医師となるためには、模範的な「型」をまず身につけ、さらにそれを自分流に使いこなさなければなりません。医師・患者関係を越えた人間同士が言葉を交えながら一つのゴールに向かっていくような、奥の深い医療が実現できればと考えています。このような教科書からでは得がたい能力を涵養する医療面接実習は、学生にとっては大変貴重な授業です。良い医師になるため、今後も研鑽を積んでいきたいです。



CAE (Computer Aided Engineering) 実習

工学部機械システム工学科2年 長田 継伸

的な形で表現できるということが実感されるとともに、今後研究室や就職先で行うであろう実験を支える基礎技術を学んでいるという期待感も感じさせてくれることです。この授業で学ぶデータの解析方法を使えば、結果が目で見えるようにできる、すなわち自分で入力したデータを元に計算を自動で行い、その結果をグラフや図で表現できることが可能になります。例えば、水が流れているところに自分の好きな形の突起物を置いたら水はどのように流れるのかを自動で計算してくれて、それをグラフにしてくれるといった具合で、その結果は驚くほど詳細なものにすることも容易に可能なのです。紙と鉛筆だけでは計算しきれない答えが得られる、それがこのCAE実習です。



CAE実習はコンピュータを使用する授業で、Microsoft Excelを利用した様々な現象の解析、テクニカルコンピューティング用言語MATLABの習得とその目的は多種多様です。

その最大の魅力は、今までただ教科書の問題を解くために使ってきた知識を具体的に

Hang Glider



濃尾平野を眼下に

サークル紹介

岐阜大学 ハング グライダー部

ハンググライダーは、日本では数の少ないスカイスポーツの一つで、大空を飛ぶという爽快なスポーツです。

もちろん、いきなり一人でできるわけではなく、車の免許のように講習を受け、インストラクターさんから認定証をもらうことで、一人で飛べるようになります。岐阜大学ハンググライダー部では、池田山のスクールで社会人の人たちと一緒に講習を受けています。

鳥と同じ視点で、鳥の見る景色を見る。春の桜、新緑の木々、夏の空と雲に秋の紅葉。下から見上げるのとは一味違う風景です。まれに、同じ高さを飛ぶ鷹とすれ違っなんてことも。

日差しによって発生する上昇気流は、我々を2000m超の別世界に誘ってくれます。琵琶湖、若狭湾、伊勢湾を眼下に望みながら鳥になった気分を味わえます。全国各地にあるフライトエリアに出かけることもあります。そんな時は、飛んで食べて温泉入って・・・大満足です。

大学祭では毎年クレープやリンゴ飴の屋台を出したり、みんなでBBQや鍋をつついて親睦を深めています。一緒に空を飛んでみたい人、募集中です。池田山に遊びに来てください。



受賞を喜ぶメンバー（岐阜県地域子ども支援賞）

岐阜大学 ユネスコ 学生クラブ

ユネスコ学生クラブは約30名で子どもと触れ合う「子ども会」を中心に様々な活動をしています。「子ども会」では月々二回公園で午後2時から4時まで地域の子どもたちと遊んでいます。

8月下旬には、「ユネスコ学校」というキャンプを行いました。子ども37名、学生28名で岐阜大学とキャンプ場でウォークラリーやカレーづくり、様々なレクリエーションを通して人やものごとに関わる大切さを共に学びました。

また他大学にもあるユネスコの仲間との交流もしています。話し合いやレクリエーションを通じて自分たちの活動を見直し、生かそうとしています。

部会後にはみんなでごはんを食べに行ったり遊びに行ったり、おもしろい仲間たちと多くの行事、イベントを通じて楽しく活動しています！

テーマ

教師のためのインターネット型大学院、はじめます

岐阜大学教育学部では、全国の大学における優れた教育的取組を支援するプロジェクト「大学教育支援プログラム(GP)」を2つ獲得しています。この2つの取組の成果と今後の可能性・課題を、広く学内外の関心ある人々と議論するためにフォーラムを開催しました。今回はそのうち、現代GPフォーラム「教師のためのインターネット型大学院」に関する議論を、ここに紹介します。



司会者

小井土 由光

(岐阜大学大学院教育学研究科 教授・副学部長)

パネリスト

松川 禮子

(岐阜大学大学院教育学研究科 教授・副学部長)

加藤 直樹

(岐阜大学大学院教育学研究科 教授)

益子 典文

(岐阜大学大学院教育学研究科 助教授)

今井 亜湖

(岐阜大学大学院教育学研究科 助教授)



小井土 ▼

このフォーラムでは、平成19年

4月から本格実施する予定の「インターネット型大学院」について、経緯・内容・取組体制などを紹介していただきます。最初に、フォーラムの意図を含めて、「インターネット型大学院」を始める意図・背景などについて松川先生にお話しいただきます。



松川 ▼ 私

どもの取組「教師のための遠

隔大学院カリキュラムの開発」は、平成16年度現代GP「ITを活用した実践的遠隔教育(e-learning)」の部門で採択されたものです。本研究科では県域の広い岐阜県で、多くの教師に

学習機会を提供するため、平成11年度よりテレビ会議システムを用いたサテライト型の夜間遠隔大学院を開講してきており、その実績を認められての採択と考えています。本取組の特徴は、①正規の大学院教育であること、②対象を働きながら学ぶ教師に特定していること、③入学から修了までのカリキュラム開発であり、単なるコンテンツ開発ではないことの3点です。従来のサテライト型大学院から発展させる要素として、①より柔軟な学習時間、②学習場所として、サテライト教室以外に勤務する学校等の職場や自宅、③学習手段として、同時型のe-learningと非同時型のLMS(Learning Managing System:学習管理システム)の併用を考えています。



小井土▼引き続き、これまでのあゆみ、本取組のポイント、インターネット型大学院の履修モデル等のより詳細な説明を、推進ワーキング・グループのメンバーからしていただきます。まず、この取組に中心的に関わってこられた加藤先生から、これまでのあゆみについてお話いただきます。



加藤▼岐
阜大学大
学院教育
学研究所

による現職教師を対象とした遠隔教育の取組は、平成9年のテレビ会議システムを用いた遠隔公開講座に始まります。平成11年には、大学院学校教育専攻の夜間授業において、高山サテライト教室を活用した遠隔大学院を開設しました。平成12年からは、教育委員会等の協力により県内サテライト教室を土岐、各務原に拡大し、平成14年には夜間遠隔授業を主と

したカリキュラム開発専攻を設置してきました。これらの取組の成果は、現職教師に大学院の学習機会を提供するとともに、従来、教育委員会において実施されてきた教員研修に大学が関わっていく基盤を形成したことであると考えています。その具体的成果の一つは、全国に先駆けて実施した6年、12年経験者研修における大学研修として実を結んだことです。インターネット型大学院は、その成果をさらに拡充するための取組として位置づけられています。



益子▼私
たちの現
代G Pの
取組は、「働

きながら学ぶ現職教師」を大学院の学生として想定した時に、インターネットで受講することを前提とした「カリキュラ

ム」の具体的な姿はどのようなものになりうるのか、実践を通して開発する試みです。カリキュラム開発の第一のポイントは遠隔学習にふさわしい教育方法です。メディアを利用した同時的・非同時的コミュニケーションのあり方や、コンテンツの効果的な利用方法を考えます。第二のポイントは、講義内容です。「働きながら学ぶ」ことを想定した時に、学習時間がないというデメリットはありますが、常に児童生徒と接している状態で研究できるメリットもあります。メリットを活かした講義のあり方を考えていきます。

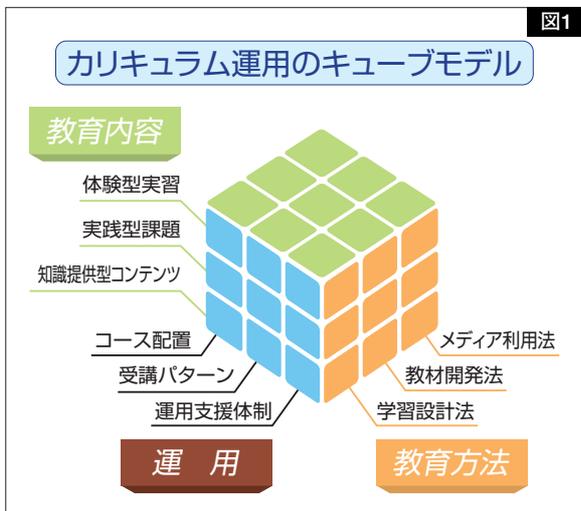
第三のポイントは、カリキュラムの運用です。学校で働きながら学ぶことのできる時間割、様々な事務手続きなども遠隔地で支障なくできるしくみをどのように実現するか。この3つの

取組を図で表すと、このような立方体として表現することができます(図1)。



今井▼教
育学研究
科のインター
ネット型

大学院は、次に紹介します履修科目を2年間で習得できるように履修モデルを考えてお



ります。履修科目のカテゴリーは、各専修の指導教員による「課題研究 6 単位＋修士論文」、本研究科に所属する学生全てが履修する「共通科目 4 単位」、各専修にて開講される「専門科目 16 単位」、専修の枠には収まらない内容を取り扱う非同時型遠隔講義形式の「自由選択科目 4 単位」です。これらの科目を働しながら学ぶ現職教員が 2 年間で習得できるように、本研究科では次のような履修モデルを考えております。課題研究は M1 後期より同時・非同時型遠隔講義にて毎週 1 コマ実施します。共通科目は各学年の 4 月上旬と夏休みにスクーリングによって学びます。各専修による専門科目は、専修ごとに開講曜日を固定し、週 1 日 2 科目を学びます。そして、自由選択科目は学生が学びたい科目を好きな時間に非同時型遠隔講義形式で履修することができます。

以下に、学外者からの質問とそれに対する回答を紹介します。

Q1 アメリカではドロップアウトが問題になっている。1 年目は受講するが、2 年目はドロップアウトが増える。非同時的コミュニケーションはドロップアウト対策か？

A1 遠隔大学院の担当をしている個人的な立場から回答すれば、常に身近にいる大学院生と比較した場合、受講生に申し訳ないという気持ち強い。ドロップアウト対策というよりは、講義やセミナーをより充実したものにするために非同時的コミュニケーションを充実させたいと思っています。

Q2 この授業やコンテンツの利便数はどのくらいを予定しているか。

A2 専修毎の受講生については、始まってみないと分からないというところがあり、予想は難しいですが、入学定員内での受講・利用なので、それを上回ることはあり

ません。何百人も受講するといったタイプの e-learning ではありません。

Q3 IT 大学院では、既存のコースと同じ修了要件ではきつと思われるが、何か配慮があるのか。また、カリキュラム上の配慮以外に（授業料や設備（ハード・ソフトを含む）など）何か配慮するか。

A3 修了要件、授業料等の配慮は今のところ考えていません。ネット・ミーティングによる同時型の授業、非同時型でのテキスト、ビデオ等の教材提供、対面講義を組み合わせたブレンディッド型の e-learning で、修士論文作成まで指導していきます。もちろん、コンテンツをそのままオンデマンドで流す設備も整備されていますが、ビデオを見ることで学習を成立させるといふよりは、受講生とインストラクタの同時的・非同時的な相互作用をより活発にするためのコンテンツの利用方法を考えています。

Q4 コンテンツ作成での肖像権・著作権の問題をクリアするのに、組織としてどのように対応しているのか。

A4 講義で使用する資料等の著作権処理は、各教員が責任を持って行っていたり、また、働きかけております。また、教育現場等で児童生徒の様子を記録し、コンテンツ化する場合に発生する肖像権の許諾については、その許諾を得るための許諾書のフォーマットファイルや手順方法などの情報を学内向けの Web サイトにて提供し、実際に許諾を得る作業はコンテンツを作成する教員各自に委ねております。ただし、肖像権の許諾に限り、インターネット型大学院のコンテンツ開発を行なう MCR（情報メディア支援室）のスタッフによる最終確認を実施しております。

大学への想い



時の経つのは早いもので、新しい世紀に入って既に6年目を迎えており、また太平洋戦争の終結からは61年目となっております。ご存知のとおり、この間私たちの国は平和憲法の下、著しい経済成長をしましたが、その後バブル崩壊等紆余曲折があり、今日ようやく復元の域に達した感があります。また同時に世界規模でも社会主義の実質的な衰退により、主要国は押並べて自由社会の潮流下にあります。

このような社会情勢の中で、時代とともに科学の進展は時間、空間を縮め、情報の拡散は経済、市場第一主義を加速させ、環境問題等新しい課題を提起しております。また、特に私たちの国におきましては、かねてから財政再建が喫緊の課題とされるとともに、2003年の合計特殊出生率1.29の数字は少子高齢化社会の到来を示唆し、早くも2005年に人口の減少時代を迎えました。残念ながら、岐阜県にあっても、この現象を回避することはできません。

これらのボトルネックに対し、あらゆる手立てを講ずる事が不可避であります。そのためには、殊に今後、若い人々の創造力・知識・技術面での能力の向上、活力が強く望まれます。そしてボーダレスの今日、それは厳しい国際競争を余儀なくされる事でもあります。

現在、私たちの国は挙げて改革に取り組んでおりますが、すべての源となる人づくりは最優先の課題であり、その基盤育成として大学が極めて大きな役割を担うものと思料しております。

岐阜大学も去る平成16年4月、国立大学法人となりましたが、それより早く種々の先進的活動が進められ、高い評価を得つつありますこと、卒業生の一人として誇らしく思っております。

改めて、私たちが育ていただいた母校と、そこに入学される未来を担う若人たちへの明日への挑戦に熱い思いとエールを送ります。

『若人たちの未来に
期待を込めて』

名古屋ハイウェイ株式会社
代表取締役社長

横山 和裕
(岐阜大学工学部同窓会
工業倶楽部会長)

平成18年度岐阜大学公開講座

平成18年度に予定している公開講座について紹介します。
実施部局へお気軽にお問い合わせください。

講座名		受講対象者	開設日	講習料	実施部局電話番号	
免許法認定公開講座	学校カウンセリング特論(予定)	現職教員 (3年以上の教職歴)	6月17日(土)～7月2日(日)	10,200円	教育学部 058-293-2203	
	教育実践改善特論		9月16日(土)～10月15日(日)	10,200円		
	教材開発特論		10月7日(土)～10月29日(日)	10,200円		
授業公開講座	国文学各論Ⅱ	市民一般	前学期毎週木曜日	10,200円		
	生涯学習概論Ⅰ		前学期毎週金曜日	10,200円		
	映像文化論		後学期毎週火曜日	10,200円		
	国文学概論		後学期毎週木曜日	10,200円		
	自然地理学Ⅱ		後学期毎週金曜日	10,200円		
望遠鏡を作って彗星を見よう		小学生とその保護者	5月13日(土)もしくは20日(土)	教材費 2,000円～ 3,000円程度		地域科学部 058-293-3002
望遠鏡を作って月を見よう		小学生とその保護者	8月26日(土)			
望遠鏡を作って月を見よう		小学生とその保護者	19年3月下旬			
もの壊し/ものづくり教室		小学生(5,6年生)	11月下旬	無料	工学部 058-293-2365	
戦争と平和を考える		市民一般 (高校生を含む)	9月30日(土)～10月21日(土)	7,200円		
工学の最前線ー2006ー (講義を広く一般の方に公開する企画です)		市民一般、技術者	5月～12月	無料		
応用生物科学部 高校生のための体験実験講座		高校生、 指導教員	8月10日(木)～8月11日(金)	無料	応用生物科学部 058-293-2835	
よくわかる生命科学 ー研究の成果がどのように生かされているかー		市民一般	10月1日(日)	2,600円	生命科学総合研究支援センター (学術情報部研究支援課 058-293-2014)	
子育て支援・家庭教育支援を考える ー臨床心理・地域教育の視点からー		児童福祉関係者、 学校教育・社会教育関係者、 市民一般	11月25日(土)	5,200円	総合情報メディアセンター (学術情報部情報戦略総括管理係 058-293-2107)	



岐阜大学に春がやってきました。桜に続く新緑、笑顔の新入生、フレッシュな「いぶき」真っ盛りです。今回のテーマは、地域、医学、教育。未来に向かって一歩ずつ進んでいるのを感じていただけたでしょうか。大学には、いろいろな専門家がいます。お知りになりたいことがあれば、何なりとお尋ね下さい。「皆さんのお役に立つ岐阜大学」でありたい。私たちの願いです。(杉山)

岐大のいぶき編集委員会

委員長/杉山 誠(連合獣医学研究科) 委員/大井 修三(教育学部)

橋本永貢子(地域科学部)

西垣 和彦(医学部附属病院)

佐藤 正(総務部)

岐大のいぶきについての
ご意見・ご要望をお待ちしています。

提出先/岐阜大学総務部総務課広報室 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL058-293-2009 FAX 058-293-2021 E-mail:kohositu@cc.gifu-u.ac.jp

表紙: 「春のいぶき」を象徴する岐阜大学キャンパスの桜(作者:工学部助教授 杉浦 隆)

広報誌名の由来: 「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹山と活動をもよおす気分・生気・活気を意味する息吹をかけており、岐阜大学の「いぶき」を感じてほしいという願いが込められています。

岐大のいぶきはホームページ<http://www.gifu-u.ac.jp/>でもご覧になれます。